

～毎月10日は人権を考える日～

「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」を知っていますか？

アンコンシャス・バイアスについて知っていますか？

最近、このアンコンシャス・バイアスについて研修する企業が増えてきているそうです。Google やフェイスブック、マイクロソフトなどの大手外資系企業が導入したことを契機に、現在では金融・証券、IT、製薬、流通、土木、製造など、あらゆる業種の日本企業が、アンコンシャス・バイアス研修を導入しています。

アンコンシャス・バイアスとは・・・？

「無意識の偏ったモノの見方」のこと。

日本語では、「無意識の思い込み」「無意識バイアス」「無意識の偏見」など、様々に表現されています。

(引用：「アンコンシャス・バイアスとは」一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所)



「女性っていうのは競争意識が強い。誰か1人が手をあげて言うと、自分も言わなきゃいけないと思うんでしょね。それでみんな発言されるんです。」

「女性の理事を増やしていく場合は、発言時間をある程度、規制をしないとなかなか終わらないので困ると言っておられた。だれが言ったとは言わないが。」

(元東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会会長の委員会での発言)

この発言は、アンコンシャス・バイアスと言っているでしょう。森会長は、会見で女性を蔑視するつもりはないと言われていました。しかし、女性に対する「偏見」「決めつけた見方」であることに間違いはないと思われます。

差別発言をした人が、「差別などするつもりはなかった！」と言うことがあります。しかし、その人の意識の根底にあるもの、それが「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」なのです。「無意識の差別意識」と言っているかもしれません。

アンコンシャス・バイアスは誰もが持っているものだとされています。しかし、問題なのは、自分の先入観や勝手な思い込みや、無意識に発した言葉や態度が相手を傷つけかねないのです。また、企業であれば、向上しようとするチャンスを奪ったり、モチベーションを下げてしまったりすることもあり、組織全体に悪影響を及ぼすことがあると言われるようになってきました。さらに、当然、差別や人権侵害につながることも考えられます。自分のアンテナを張って、自分の中にあるアンコンシャス・バイアスに「気付く」ことから始めたいものです。

あなたの中にアンコンシャス・バイアスはありませんか？ (例)

- ・雑用や飲み会の幹事は若手の仕事と決まっている。 ・育児中の女性社員に営業は無理とってしまう。
- ・LGBT に対して戸惑いを感じる。 ・腕を組んだり、足をくんだりしながら、相手の話を聞く。
- ・お茶出しは女性がやるものと決まっている。 ・定時で帰る社員はやる気がないと思う。
- ・性別、世代、学歴などで、相手を見ることがある。 ・子育て中の女性に、転勤を伴う仕事の打診はしないほうが良いと思う。
- ・男性から育児や介護休暇の申請があると、「奥さんは？」ととっさに思う。
- ・障がいのある人は、簡単な仕事しかできない、あるいは働くのが難しいだろうと思う。

(参照：「共同参画 2021 5月号」内閣府男女共同参画局、他より)